

子ども会(学習会)だより

MY SKY No.23

マイ・スカイ

1997年11月4日火曜日発行(毎週火曜日子まぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成正士

私、この数週間で「ムムムム……？」と感じたことがあるのですが、みなさんはどうでしょうか？それは何かというと、どうもここ最近、あいさつできる子が増えたような気がするんです。また、ヘルメットをかぶってる子も増えたような気がするんです。どうかナア……？私の思い過ごしかもしれないし、実際にそうかもしれません。今の^{きこう}気候がそうさせるのかもしれませんが、学級担任の先生方がかなり^{がんば}頑張ってくれてるのかもしれませんが。本当のことは何も分かりませんが、とにかく朝学校に来るとき、来たとき、みんなの顔がすがすがしいんです。みなさんはそんなこと感じてませんか？私だけかナア……？

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 第1学年第3回全体学習1年C組資料「わたしの心」(10月30日;本校体育館)

今回も前回と同じ形式になりますが、1年生の第3回全体学習の感想文です。まずは読んでみてください。2・3年生のみなさんにとっても^{しげき}刺激的だと思いますよ。

今日は3回目の全体学習。私は5時間目よりも6時間目の方が楽しく思えた。それは発表することができたことや、友達の話^{しんけん}を真剣に聞いたりできたからだと思う。

私は、今日初めて分かった。司会者は先生だけど、話を進めなくちゃいけないのは私を含める1年生だということに。そのためにも、今度は発表しようっと！！1年女子

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★ ☆☆ ★

今日の全体学習は、いつもよりあんまりしんだいって思わなかった。みんな、^{わけ}しんだい訳などを聞いたからだというのが分かった。

私はもう一人の自分がキライ。私の中に悪い心があるということ自体がキライだから。でも先生が「人の心の中には必ず悪い心がある」ってことを言っていて、私は安心した。1Cの人のことを聞いていて(意見)同じだと思いました。D組の時は、ハッキリ自分の意見を言いたいナア。1年女子

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★ ☆☆ ★

今日の全体学習で、私はみんな同じことを考えているんだなあと思いました。しんだいと思っていたり、好きとか嫌いとかいろいろな意見が出てきたけど、私が今日思ったのは、楽しくしたり、好きになるには、どんどん発表していったりすることがいいと思

いました。だから次はD組の番なので、発表していきたいです。どんなことについて話し合いをするんでしょう？

私もまだ全体学習が好きというわけではないから、1年の間でも2、3年になってするときも、しんだいと思いながらするのはしんだいから、好きになる！！一人やークラスで考えるより、みんな一緒に考えられるしね。自分の考えてること言った方がスツとするし。でも、発表するとしたらなかなか。今度がチャンス？！D組がするときには、1回は言いたい！

1年女子

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★ ☆☆ ★

今日の全体学習で思ったのは「あたったらどうしよー」の不安だった。いよいよ当てられる6時間目がきた。意見を聞いていると、みんなだいたい「全体学習なんてしんだいなー」って思っていた。そしてD組の意見の時「Oくんの列、横に言っていって」。なんと、私もいた。「書いているとおりに言えばいいんだ」って思いながら、不安を増して読んだ。終わったとたん、スツキリしたでいっぱいだった。前に心で思っていたことが言えたし、まだ言えなかったこともあって……全体学習って大事かも。 1年女子

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★ ☆☆ ★

私は今までの意見を聞いていて、考えが少し変わりました。プリントには“自分には関係ない”だの書いていますが、全体学習で意見を言えたらすごく感心できると思います。

それと1つ^{ていあん}提案で「後で何か言われるのが怖い」と言ってくれた人がいたけど、そういうヤツには「黙^{だま}ってすわっとる方よりマシと思うけど？」と言ってやりましょう。発表できる勇気があるんだったら、そのぐらい言ってやれ！

我^{われ}ながらよく書いた。でも私も(悪口は言わんけど)「黙^{だま}ってすわっとる人」やしなあ……。私はシャイなので^{しめい}指名してくれるとうれしいです。指名してほしいときは、目で「せんせ〜、ここよ〜」と^{うった}訴えます。私のハートをキャッチして！

それと私はN君のことを前の前のページで^{いんねん}因縁つけてしまった(?)のですが、とても^{こうかい}後悔。あんなことを考えているとは思いませんでした。悪口言われても負けないというのが、私には簡単にできない^{げんとう}芸当だと思います。ちゃんと自分の意見を言うんですね。ああホレそう……(←これはウソ)。私も頑張りたい。

1年女子

どうでしたか？読んだ人それぞれに、思いや感想があると思いますが、とりあえずそれはそれぞれの^{うち}内に秘めて、また機会を見て出してください。(個人的に感想を寄せてくれても結構です)

中学1年生の目標の一つは、「自分の意見を素直に言う」ことです。そのことからいけ

ば、本当に納得のいく全体学習だったように思います。あんなに楽しくイキイキといろんな意見が出せ、またこのようにいろんな考えがもてるということは、本当にすごいことです。あとは、周りの仲間と広く深くつながりながら、また生活や自分自身を見つめながら、いろんな知識を蓄えていくことです。1年生のみなさん、これからも頑張ろうね！！



「ボンチャイナ」なるものをみなさんはご存じでしょうか？という私も、つい最近ある保護者の方に教えてもらったので偉そうなことは言えないのですが……。

保護者というよりも、親しくしてもらってる方のお家に行ったとき、このボンチャイナについて教えていただいたのですが、簡単に言うと磁器に骨灰を混ぜて器に焼いたのが、このボンチャイナといわれるものなのだそうです。

焼き物でいえば、みなさんにとっては陶器の方がなじみ深いかもしれませんね。お茶碗や湯飲みが陶器です。これは、粘土を器の形に作って焼いたものです。

しかし磁器は、石をわざわざ砕いて粉末状にし、水分を含ませて粘土質にしたのを焼きます。2年生の人は、修学旅行の時に有田焼を見学しましたよね。あれが磁器です。また西校区にある砥部焼きも磁器に入ります。

これに砕いた牛の骨をある割合で混ぜたものを骨灰磁器というのだそうですが、そうして焼くと、割れにくく、保温性がよいのだそうです。また色付けをしても、器になじんでなめらかな手触りになるのです。骨の灰を混ぜただけでこんなになるなんて、まるで魔法ですよ。これがつまり、ボンチャイナなんです。

「ボン=BONE=骨」「チャイナ=西洋で磁器の意味」

という意味を知れば、しっくり理解できるのではないのでしょうか。

この夏に学習会で大阪羽曳野市に交流学習に行きましたが、そこで大きな食肉センターを見学することができました。地元の方や、そこで働いている方の説明を聞くことができましたが、その時に、

「残るのは鳴き声だけ。後はすべて、無駄なくいだけさせてもらってます」

ということを知りました。「ほんまかなあ～」と思ってたのですが、骨までこうして上手く使えることを知ると、その言葉にも納得してしまいます。

前置きが長くなってしまいましたが、このボンチャイナに絵付けしたものを、学習会作品として今年の板野町解放文化展に出品しようと思うのです。今週日曜日に一日体験と

して行くのですが、たくさんの学習会生徒のみなさん、保護者の方々、また先生方も一緒にいかがですか？当日の説明を今週の金曜日、昼休みに視聴覚室で行いますので、^{さそ}誘い合って来てください。また保護者の方で参加希望される方は、吉成の方までご連絡ください。それでは、ヨロシク～！！解放文化展をお楽しみに～！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★ ☆☆ ★

11月9日(日) 学習会ボーナチャイナ絵付け教室(不動町)

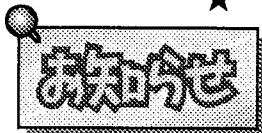
14日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～;郡頭教育集会所 テーマ「解放の父・松本治一郎のビデオ」)

18日(火) 2年生合同学習会(16:30～;大会議室)

19日(水) 解放子ども会(18:00～;総合センター)

20日(木) 第2学年第2回全体学習(2年E組資料「木を植えた男」)

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★ ☆☆ ★



以前P T Aの会で話をしていたとき、「同和教育の会に行けるな

ら行きたいと思うんだけど、いつあるのかわからない」と保護者

の方に言われたことがありました。うれしいことです。結構他の町

では、P T Aや地域の方々も参加しているので、板野町もそうなればと思っていたのです。

行ける方、興味ある方、ぜひ一緒に参加してみましよう！きっと何かが得られると思いま

すよ！詳しくは、中学校の阿部または吉成までご連絡ください。

11月6日(木) 第41回板野郡同和教育研究大会(吉野町)

11月16日(日) 板中P T A参観人権フォーラム(本校体育館)

11月29日(土)～12月1日(月) 第49回全国同和教育研究大会(熊本県)

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼



板野中学校学習会県外視察・交流会(大阪羽曳野中学校)(97. 8. 28・29)

同和教育講演会録

『私の歩んできた道 ⑦』

私たちは、この世にただ一人の人間として、自分の生まれた故郷で、限られた場所で、限られた仕事について、限られた自分の人生を一生懸命生きていきます。そのことに誇りをもって生きていくことは、私たち一人一人にとって大切なことだと思います。

ところがその自分を、間違つてとらえてしまう。それが差別の心だと思えます。人を見下げること、他人を低く見ることで自分が勝つたような、自分が偉くなったような。また、人の弱点をつつくことで何となく安心をする、胸をなでおろす。そういった点が私たちの心の中にあります。自分より弱い人、劣っている人、身体に不自由のある人を捉えて優越感を感じてしまうといった、そんな醜い心が私たちの心の中に潜んでいるのです。そういった人間の心の中の醜い一面を巧みに利用して「上見て暮らすな、下見て暮らせ」と分裂支配の論理を、支配階級であった武士が農民を支配してきました。すなわち、武士が農民から年貢を取り立てることを容易にするために武士は農民たちに言い聞かせたのです。武士は農民より低い身分の人たちを作り、その人たちを川のほとり、山の日当た

りの悪いところに小集落で住まわせ、そして人のいやがる職業をその人たちに押しつけ、その人たちの生活や人権を奪ってきました。そして武士は農民に、

「お前たちは、あのように惨めな生活はしたくないだろう。お前たちは米を作れ。そして年貢を納めよ。」

お前たちは武士の次に偉いのだ」

そういったことを言い聞かせられ、農民は農民として年貢を取り立てられる。その厳しさを、自分たちより低い身分の人たちの苦しい生活を見ることで、

「あいつらよりはましだ」

と、きつい年貢の取り立てを我慢していくといった、そういう施策にまんまと引つかかったのが、江戸時代における幕藩体制での身分制度だったんです。もつとも厳しいこの部落差別の起源が、このような歴史的事実に基づくものであり、いわれの無いものであったのです。

H町でも、この問題解決への行政の積極的な取り組みがなされております。そういった取り組みのH町において、私の家庭に大きな問題が持ち上がってきました。それは、長男が高校二年になったときのことでした。子どもの学校の近くの駅構内で、長男は友達とベンチに腰を下ろし、雑談をしており

ました。そこへ中年の男性が近づいてきて、座っている子どもたちの前にその人は立ち止まり、しばらく子どもたちの胸の名札を見ておりました。そしてその人は、

「おまえSいうんか」

子どもが返事をする、

「お前〇〇地区じやろ。お前これじゃろうが」

そう言うなり、その人は右手を差ししました。子どもはその指のしぐさが理解できぬまま、そのことを無視してまた友達と雑談しておりましたが、

それでもその人は子どもたちの前を立ち去ろうとはせず、今度は大きい声で、

「お前は部落の子じやろうが」

そう言ったのです。その時初めて子どもは、

「先ほどのあのしぐさは、このことだったのか」

と思つたとき、立ち上がり、手に力が入りました。子どもは柔道をずっと続けていましたが、力が入った手を、またその人にふりかかろうな自分の気持ちを抑えつつも、相手と向かい合っていました。ふと気がつく、友達

が横にいて手を引く張り、盛んに何か言っていました。その言葉は聞き取れませんでした。自分の頭の中では、その人に対してどう答えてよいかも分からず、

「力が入ったこの手を使つてはいかん。」

ここで柔道を使つてしまえば、同じ部活の者、同僚、学校全体に不名誉なことを残してしまう」

その気持ちを自分に言い聞かせるのと、いきり立った胸を押さえるのが混乱して、自分がどうしていいか分からないまましばらくその人と向かい合っていました。

ふと気がついたとき、駅構内のすべての人が自分を注目しているのが目に入りました。

「この場を離れよう。離れんといかん」

そう思つた子どもは、友と別れて家に帰り、このことを私に話しました。

「そうか。その人をすぐに探しに行こう」

私とその言葉がけをすると、子どもは私の顔色を見たのか、

「お父さん、ケンカしたらあかんて」

そう言いました。

「お父さんがケンカをするか。お前さえ我慢して帰ってきたのに……お父さんは、その人を捜し出し、そして

お前にしたことをさらに他の友達にしないように、お父さんは、その人を止めるために行くんだ。止める義務があるんだ」

子どもをそうなだめて、私は車をとばしました……。